【投薬】

707 酸化マグネシウムの倍量までの算定について

《令和7年10月31日》

〇 取扱い

酸化マグネシウムの投与量は、原則として倍量まで認められる。

〇 取扱いを作成した根拠等

酸化マグネシウムの添付文書の用法用量には、「年齢、症状により適宜増減する。」とある。患者の症状の改善のため投与量を増量する場合であっても、 用法用量の倍量までの投与が妥当と考える。

以上のことから、酸化マグネシウムの投与量は、原則として倍量まで認められると判断した。